

白いりゅう 黒いりゅう



賈芝・孫劍冰編
君島久子訳

岩波書店

白いりゅう 黒いりゅう

—— 中国のたのしいお話 ——

チャーチ
スチエン
ビンヘン
孫劍冰編
君島久子訳
赤羽末吉絵

岩波書店



923 白いりゅう 黒いりゅう

賈芝，孫劍冰編

君島久子訳

岩波書店 1964

156 p 22 cm (岩波おはなしの本 7)

小学1～3年

賈芝，孫劍冰編，中国民間故事選第一・二集，雲南各族民間故事選より

岩波おはなしの本 7

■白いりゅう 黒いりゅう 定価一〇〇〇円

一九六四年七月十三日 第一刷発行 ©

一九七八年八月二十日 第十六刷発行

訳者 君島久子

絵 赤羽末吉

発行者 東京都千代田区一ツ橋二ノ五ノ五

緑川 亨

発行所 101 東京都千代田区一ツ橋二ノ五ノ五

株式会社岩波書店

電話〇三二五十四二一 振替東京六一三三四〇

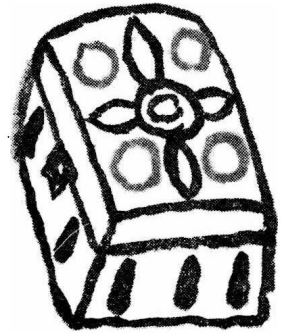
本文印刷 大日本法令印刷株式会社

製本 文勇堂製本工業株式会社

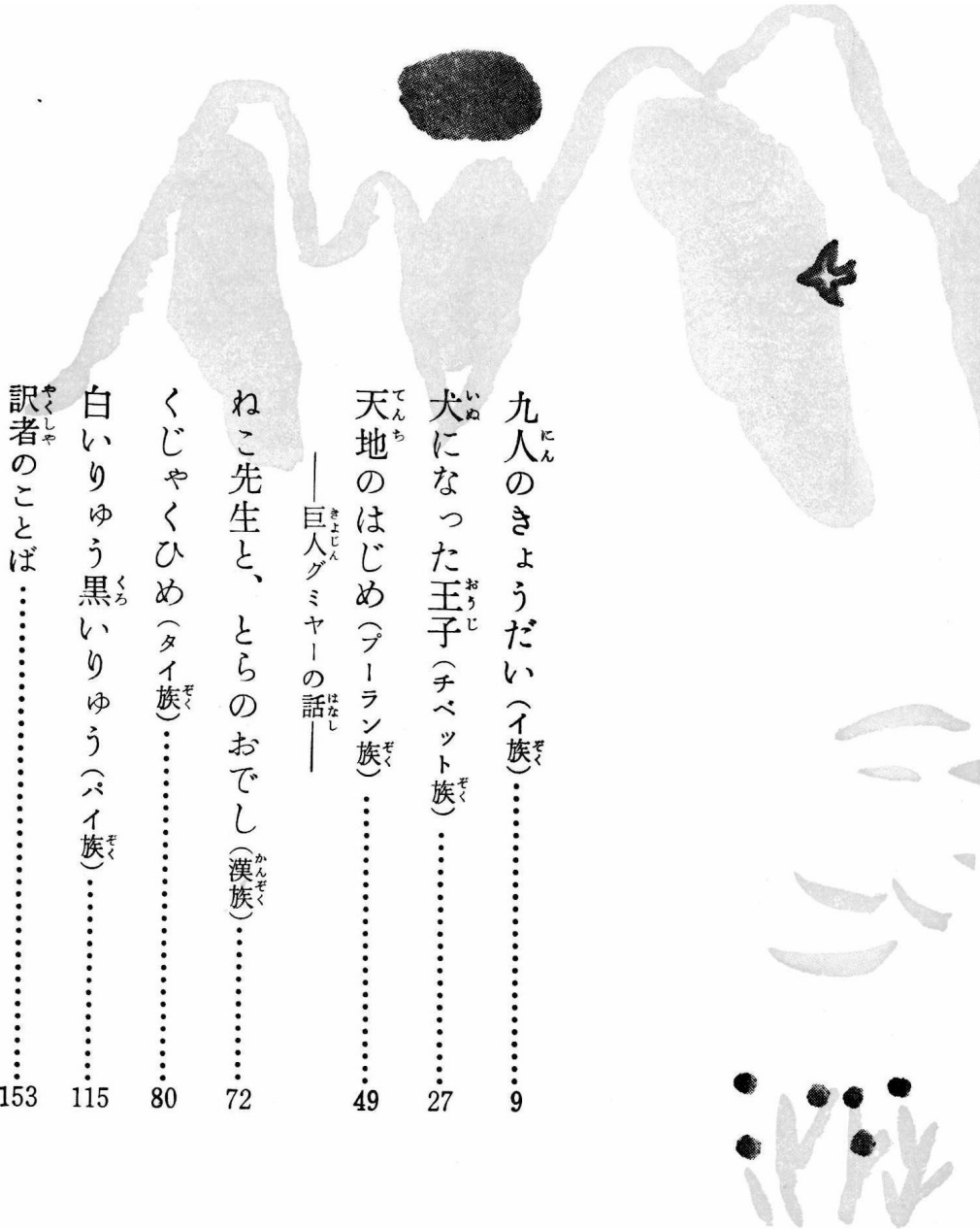
表紙・口絵・見返・箱印刷 錦印刷株式会社

落丁本・乱丁本はお取替いたします

おくじ







九人にんのきょうだいぞく(イ族).....9

犬いぬになつた王子おうじ(チベット族).....27

天地てんちのはじめぞく(プーラン族).....49

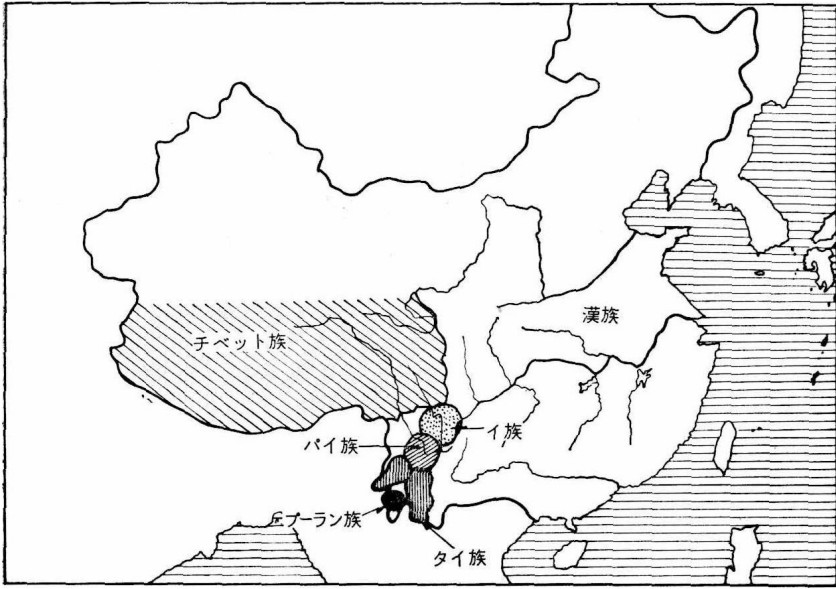
——巨人きょじんグミヤーの話はなし——

ねこ先生と、とらのおでしかんぞく(漢族).....72

くじやくひめぞく(タイ族).....80

白くろいりゆう黒くろいりゆうぞく(バイ族).....115

訳者やくしゃのことば.....153



このおはなしをつたえた中国の民族

彝族——四川省の西南部や、雲南省の北部の、山の中にすんで、

農業や牧畜をいとなんでいます。人口は、三三〇万人ほどです。

チベット族——ひろいチベット高原にすんでいます。テントぐら

しの遊牧民と、石できずいたいえにすむ、農牧民があります。

人口は、二八〇万人。

ブーラン族——雲南省の南部の、原始林にすんでいます。人口は、

四万二千人ほどで、むかしながらの焼畑(草木を切ってやきはらい、

そこに畑をつくる)をしています。

漢族——中国のほとんどの土地にすんでいます。人口六億八千万

のうち、九四パーセントをしめ、中国の代表的な民族です。

タイ族——雲南省の南部シブソパンナ・タイ族自治州にすんで

います。人口は、五〇万人で、平地や川のほとりに、水田をつ

くっています。

パイ族——雲南省のターリー・パイ族自治州にすみ、みずうみの

ほとりの平野で、水田をつくってくらしています。人口は六八

万人です。

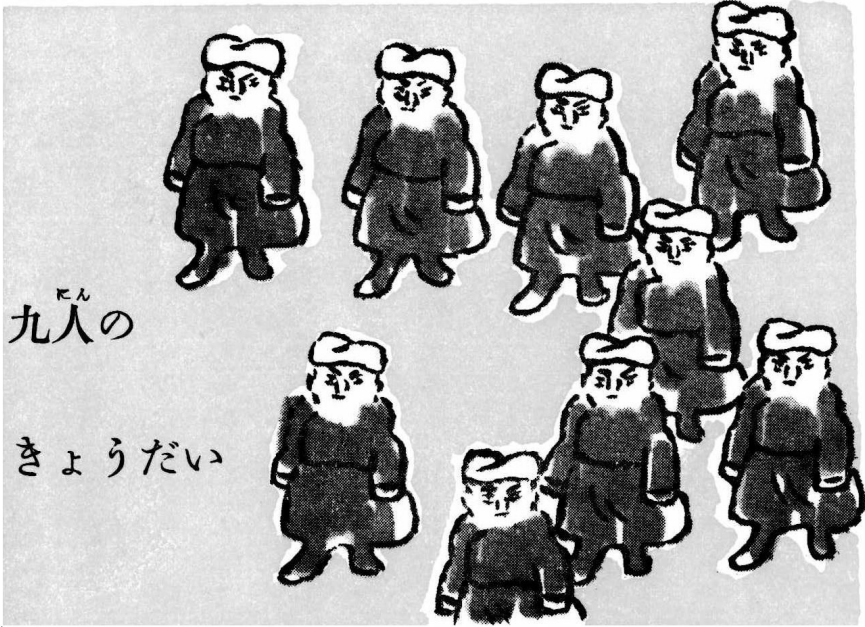




白
い
り
ゆ
う
黒^{くろ}
い
り
ゆ
う

君^{きみ} 買^{チヤーチ}芝^チ・孫^{スン}劍^{チエン}冰^{ピン}編^{ヘン}
島^{しま} 久^{ひさ}子^こ 訳^{やく}





九人の

きょうだい

それは、いつのころか、てんでけんとうもつかないほどの、おおむかし。イ族ぎくのある村むらに、としよりのふうぶが、すんでいました。ふたりはいつも、「子どもがほしい、子どもがほしい。」と、おもっていましたが、すっかりこしがまがつてしまっても、まだ子どもは生まれません。

おばあさんは、ある日、あんまりさびしいので、うらの池いけのほとりで、じっとかんがえこんでいました。ひとりでに、目からなみだがこぼれて、ぽとーんと、池いけの中におちました。

すると、池いけの中から、白いかみの老人ろうじんがあらわれて、

「なぜ、なくのじゃ。」と、やさしく、たずねました。

おばあさんが、わけをはなしますと、

「よしよし、それでは、おまえさんに、丸薬がんやくをあげよう。一つぶのむと、子どもがひとり生まれる。九つあるから、みんなで、九人にんの子持ちこもちになるわけじゃ。」と、いつて、くろいちいさなまるい玉たまを、おばあさんにくれました。

「これは、どうもありがとう——」

おばあさんは、それをおしただいてから、かおをあげてみますと、もう老人ろうじんのすがたは、どこにもありませんでした。

おばあさんはうちにかえると、さっそく、そのくすりを一つぶのみました。

そして、一年ねんまちました。けれども、あかんぼうは生まれません。

おばあさんは、もうまちきれなくなって、あるだけ一ぺんにのんでしまいました。するとまもなく、おなかがおおきくなって、ある日、とつぜん、九人にんのあかんぼうが

生まれたのです。

オギャー、オギャー、アワ、アワ……

もう、たいへんなさわぎです。これを見て、おじいさんは、こまってしまいました。なぜって、ひどいびんぼうなので、とても九人ものあかんぼうのうぶぎをつくってやるのができません。それにおばあさんは、もちろんおちちもできません。

はだかではたばたと、手や足をうごかしている、あかちゃんたちをみて、としよりふうふは、かわいそうでつらくて、なみだをこぼしました。

するとこのとき、

「なぜなくのじゃな。」と、いうこえがしました。

おばあさんが、はっとかおをあげてみますと、いつか池のほとりにあらわれた老人がたっています。そこでおばあさんは、こまっているわけを、すっかりはなしました。「よしよし、しんぱいはいらん。なんにもしてやらなくとも、この子たちはひとりで、りっぱにそだつのだ。」といって、その老人は、子どもたちに、なまえをつけてく

れました。

そのなまえというのは、

「ちからもち」

「くいしんぼう」

「はらいっぱい」

「ぶってくれ」

「ながすね」



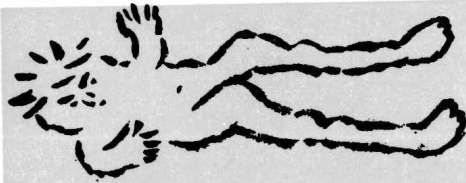
ちからもち



くいしんぼう



はらいっぱい



ながすね



ぶってくれ



さむがりや



あつがりや



切ってくれ



みずくぐり

というのでした。

さて、この九人くじんきょうだいは、いっしょに、いっぺんに、おおきくなりました。
ちようどそのころ、みやこでは、たいへんなさわぎがもちあがりました。王おうさまの

「さむがりや」

「あつがりや」

「切きってくれ」

「みずくぐり」

宮殿きゆうてんの、竜りゆうのかたちをしたはしらが、とつぜんたおれてしまったのです。

この竜りゆうのはしらは、宮殿きゆうてんをささえるいちばんだいじなはしらでした。それだけに、とても大きく、とても重おもくて、もちあげるどころか、うごかすこともできません。

王おうさまのけらいのなかにも、みやこの人びとの中にも、とうとう、だれひとり、このはしらを、なおすことのできる人がみつかりませんでした。

そこで王おうさまは、国くにじゆうにおふれをだしました。

「宮殿きゆうてんの竜りゆうのはしらを、もとおりにできたものには、のぞみのほうびをとらせ
る。」

このはなしは、九人くにんきようだいのいえにも、つたわってきました。そこで、きようだいはそうだんをして、ちからもちが、でかけることになりました。

ちようどよなかに、ちからもちは、宮殿きゆうてんにつきました。そして、たおれている竜りゆうのはしらを、ひよいと、もちあげ、ちゃんともとおりになおして、かえってきました。あくる朝あさになって、これを見つけた王おうさまは、おどろいたのなんの、さっそく、な